



杭州市、富陽^{フヤン}、大河、富春江が流れる。しかし今、街は再開発の只中にある。顧家^グの家長である母の誕生日の祝宴の夜。老いた母のもとに四人の兄弟や親戚たちが集う。その祝宴の最中に、母が脳卒中で倒れてしまう。認知症が進み、介護が必要になった母。四人の息子たちはそれぞれの人生に直面し、孫たちは恋と結婚で揺れ動く。変わりゆく世界に生きる親子三代の物語。

春江暖

しゅんこう
すいだん

2019年
カンヌ国際映画祭
批評家週間クロージング作品
2019年
東京フィルメックス
審査員特別賞

★★★★★
中国の若き天才のデビュー作。
トップクラスの芸術性!
—Bande à part—

★★★★★
野心と謙虚さが交差して
映画に奉仕する。
—Transfuge—

比類のないショット、
完璧な時の流れ。

シャルル・テツソン

(カンヌ国際映画祭批評家週間ディレクター)

記憶の中で、故郷^{フヤン}の富陽はいつも静かで退屈な小さな街でした。しかし、そこでは絶え間なく変化が起り続けていることに驚かされました。すべての普通の人々、すべての市井の家族たちの心の内側は、街のうごめきと無関係ではありません。
“現代の山水絵巻”のように、彼らの人生がゆっくりとスクリーンに広がる、そんな映画を作りたいと思いました。——グー・シャオガン(監督・脚本)



現代の山水絵巻のごとく中国新世代の才能が描いた 驚嘆の傑作

爆竹の喧騒と人々の哀愁の外に広がる雄大な自然風景。俯瞰的なカメラワークと音楽が重なった相乗効果から、現代中国の市井の人々の物語を見ているのに、悠久な時間の流れに身を置いているような気持ちになった。

——王舟 ● ミュージシャン

最初は小津映画やホウ・シャオシェン（侯孝賢）、エドワード・ヤン（楊徳昌）の模倣かなと思って見始めましたが、とんでもなかった。

このところ日本でも力作中国映画の公開が続いていますが、その中でも際立つ傑作です。

——藤井省三 ● 中国文学者

グー・シャオガンが本作の発想源に、文人山水画の最高傑作「富春山居図」を挙げるのは伊達ではない。風景を普遍的な絵画世界に転生させるプロセスも含め、伝統絵画のエッセンスを、きわめて映画的な手法で再生させているのだ。時の移ろいによって変わりながら、なお変わらないものが、そこにある。

——板倉聖哲 ● 東京大学東洋文化研究所教授

中国料理を学ぶ中で特に惹かれた食文化、江南地方の料理。その地域の一つ杭州、富陽を舞台にし、日本と同じ様な四季の自然の移ろいと呉の都の時代からの歴史的な景観と山水画を引用した美しいショットに引き込まれてしまいました。同時に現代の開発された建造物の存在や中国の文化的背景、急激な発展に伴った中国社会の問題やリアルを家族それぞれの視点から表現されていて、物語としても強烈なメッセージを感じます。

——鯨井勇一 ● JASMINE総料理長

超本格派、彗星のように現る！って感じ。

これは、2020年のNo.1に決定だね。

(BRUTUS「みんなの映画」より抜粋)

*ホンマさんは2020年鑑賞のため

——ホンマタカシ ● 写真家・映画監督

大河を泳いで行く男とその周囲に悠々と広がる風景を何分間にも及ぶ長いトラベリングで追う。この世でないどこかに繋がっているような荒涼とした長い路地を老女が漂っていく様をゆっくりと見守る。グー・シャオガンのカメラはそうして時間と空間をたっぷりと、適切に用いて、それらの繋がりをけたたましく崩壊しようとする響きと怒りへ、慎ましくも大いなる抵抗を示してみせる。

——坂本安美 ● 映画批評、アンスティチュ・フランセ日本映画プログラム主任

山水画に着想を得たという横移動の長回しの絵巻の中に、中国映画の良識がすべて詰まっている。本当に信じられない。これがある若い映像作家のデビュー作だとはい……。この映画は、残る。

——向井康介 ● 脚本家

絵巻は右から左に見る。観者の目の動きや鑑賞時間が転写され、画中、時が流れ事物は動く。逆に本編随一の印象的なスクロールは正に絵巻を巻き取るように左から右へなされる地勢や空間、幾層かの時間を写し取る。その時、風景自体が観者となり登場人物や私達までもそこに落とし込む。静かで美しくありながら物凄まじい鑑賞体験をする事になる。

——山口晃 ● 画家

中国に生きる、一人の素晴らしい映画作家に最大の敬意を表したい。変わりゆく社会を、家族という普遍から描いた傑作。一生に一本の映画になりました。

——藤井道人 ● 映画監督・脚本家

順不同・敬称略

予約必須の大人気中華

JASMINE 憶江南

期間限定メニュー

映画の舞台である杭州を含む江南料理を中心としていることで有名、中目黒の一軒家レストラン、JASMINE 憶江南。映画のタイトル「春江水暖」の由来、「春江水暖鴨先知」の一節がある漢詩「惠崇春江晚景」の作者、詩人にして美食家の蘇東坡が考案したと言われる「東坡肉(トンポーロー)」を。いつもはメニューにない、この杭州の名業を伝統的なレシピそのままに期間限定でご用意致します。ひとつずつ器に入った盛り付けも素敵です。



2/8(月)~3/31(木)

期間限定『春江水暖〜しゅんこうすいだん』コラボメニュー

“東坡肉(トンポーロー)” 1個 1,200円(税抜) ※ディナータイムのみのご提供



Lunch 11:30~15:00 (LO 14:00)
Dinner 18:00~23:00 (LO 22:00)*

JASMINE 憶江南

〒153-0043 東京都目黒区東山1-22-3 TEL.03 (6303) 1927
▶地下鉄日比谷線 中目黒駅 徒歩7分、東急東横線 中目黒駅 徒歩7分
定休日:毎週日曜日(ただし月曜日が祝日の場合は営業し、翌火曜日を休業とります)

*新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、1/8(金)より当面の間は下記の通りディナータイムの営業時間を17:00~20:00に短縮しています。今後の政府及び東京都の方針や感染状況によって期間の延長や営業時間の変更を行う場合がございます。

監督・脚本:グー・シャオガン 撮影:ユウ・ニンファイ、ドン・シュー 音楽:ドウ・ウェイ 出演:チエン・ヨウファー、ワン・フォンジュエン、スン・ジャンウェイ、ジン・レンリヤン
原題:春江水暖|英語題:Dwelling in the Fuchun Mountains|中国映画|2019年|150分|字幕:市山尚三、武井みゆき|字幕監修:新田理恵|配給:ムヴィオラ ©2019 Factory Gate Films All Rights Reserved

茶語 茶語 (Cha Yü) オンラインショップ

映画の舞台、杭州特産の緑茶「龍井茶」を扱うオンラインショップ茶語 (Cha Yü)。台湾や中国の各生産地から直輸入した納得の品質と種類を誇る中国茶の魅力的なラインナップ。映画の余韻に浸りながら、中国茶はいかがでしょうか?ご購入は下記 URL から。



<https://www.jp-greentea.co.jp/brand/chayu/>

SHIBUYA TSUTAYA

映画の公開を記念した「春江水暖〜しゅんこうすいだん」コーナーを展開。新世代の映画狂、グー・シャオガン監督らしく、ホウ・シャオシェンやエドワード・ヤン、アン・リー、小津安二郎らのフェイバリット作品から、「大家族映画の名作」や「世界の同世代監督作品」など、映画に関連した切り口で古今東西の名作・話題作をたっぷり、映画好き必見です。

2/1(月)~

『春江水暖〜しゅんこうすいだん』コーナー SHIBUYA TSUTAYA 4F

〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町21-6 QFRONTビル TEL:03 (5459) 2000

※1/8に発令された緊急事態宣言に伴い営業時間を変更しております。

営業時間:AM10:00~PM9:00

www.moviola.jp/shunkosuidan

2月11日よりロードショー!

特別鑑賞券1,500円(税込) 絶賛発売中!

★劇場窓口でお買い求めの方「抗菌オリジナルマスクケース」をプレゼント(数量限定)

2/26 (金)~ 東京 UPLINK 吉祥寺 0422(66)5042

2/19 (金)~ 愛知 伏見ミリオン座 052(212)2437

大阪 テアトル梅田 06(6359)1080

京都 シネマ 075(353)4723

3/13 (土)~ 兵庫 元町映画館 078(366)2636



渋谷・東急本店ヨコ Bunkamura ル・シネマ

03(3477)9264 www.bunkamura.co.jp

【大塚日ル・シネマサービスデー】【休館日MY Bunkamuraオンラインサービスデー】【平日予約】1,200円

